

日本史 前期期末~

モンゴル襲来

() (チングスの孫)、()を通じて日本に朝貢を要求
⇒ 8代執権() (時頼の子)、要求を拒否

1274年()

1281年()

⇒()を強化(九州の御家人)

モンゴル襲来後の政治

()に()を設置

そうした中... 北条氏の嫡流の当主()の権力を強化

⇒ 御家人や北条氏一門が幕政を主導する、()が成立(9代執権()から)

社会の変動

農業・・・()と()が普及

手工業・商業・・・()の結成、()の出現、()の誕生・発達

貨幣流通・・・()の流入、()の使用、()の出現

幕府の衰退

1297年() (幕府が御家人の窮乏化に対応)

()の台頭 (年貢納入拒否など、荘園領主に抵抗する武士)

鎌倉幕府の滅亡と建武の新政

後嵯峨法皇の死後、皇統が2つに分裂

→() : 後深草 (後の北朝)

→() : 亀山 (後の南朝)

⇒ 幕府が調停し、()に (両統が交代で皇位につく)

このような中、() (皇統) の() (天皇) が即位
2度倒幕を図るが失敗し、() に流される

しかし、()、()、()らが蜂起・活躍
⇒ 1333年 () 滅亡

() (1333~1336 後醍醐天皇)
→ 天皇へ権限集中 = 摂関・院政・幕府を否定

() が反旗を翻す
⇒ 1336年 京都を制圧し、() (天皇) 擁立 → () (持明院統の朝廷)
⇒ 後醍醐天皇は、神器を奉じて吉野へ → () (大覚寺統の朝廷)

南北朝の動乱

3代将軍 () の() (1392年) まで続いた

武家社会の変化

- ・ 土地相続が () から () (嫡子が全て相続) へ
- ・ () (一族) から () (近隣) へ

⇒ 武士団内の分裂・対立により、動乱が長期化・全国化

守護大名と国人一揆

守護の土地支配の強化

- ・ ()
守護に、荘園・公領からの年貢の半分を () として徴収する権限を付与
⇒ やがて年貢だけでなく土地も分割
- ・ ()
荘園・公領の領主から年貢徴収を請け負う

これらにより、一国全体の地域支配権を確立

⇒ 守護 → () へ
任国 → () 化

一方、国内では自立した () が各地を支配

- ・ 守護大名と主従関係を結ぶ
- ・ 国人同士で () を結んで守護大名に対抗

室町幕府

中央組織

① ()

将軍を補佐

足利氏一門の () ・ () ・ () 氏が就任

⇒ ()

② ()

京都内外の警備・刑事裁判

長官には、()、()、()、() 氏が就任

⇒ ()

地方機関

・ ()

関東八カ国と伊豆・甲斐を統括

尊氏の子、() が初代の鎌倉公方（長官）

⇒ 子孫が世襲

鎌倉公方を補佐する () は、() 氏が世襲

幕府の軍事力

・ ()

幕府の財源

・ ()、()、()、()

幕府の交易

・ () (朝貢貿易、勘合貿易)

1368年 明建国

貿易は幕府のみ → 応仁の乱後、細川、大内氏へ

・ ()

1392年 朝鮮建国（季朝）

() 倭寇撃退に活躍

明、朝鮮ともに () が国交を開いた

琉球王国の成立

1429年 () の () 氏が三山 (山北・中山・山南) を統一して建国
() に王府を置き、外港の () を拠点に中継貿易で繁栄
明・日本と国交があった

幕府の衰退と庶民の台頭

- ・ () (惣)
 荘園や公領の内部にできた自治的な村
 ⇒ 鎌倉後期に近畿で発生し、南北朝後期に各地に拡大
- ・ ()
 農民、一部の都市民、困窮した武士
 ⇒ 借金の帳消しや債務の破棄を意味する () を要求 → () (正長・嘉吉)
- ・ () (1467 ~ 1447)
 原因
 - ・ 8代将軍 () の後継者争い
 - ・ 畠山・斯波氏の家督争い
 - ・ 有力守護の () と () の対立 ⇒ 細川方 () と、山名方 () に分かれて戦い

 結果
 - ① 有力守護が在京して幕政に参加する体制が崩壊する
 ⇒ 幕府権威の失墜
 - ② 守護代や国人の勢力拡大、守護大名の衰退
 ⇒ 下剋上の風潮が強まる → () の台頭へ
 - ③ 荘園制の解体が進む
 国一揆
 - ・ 争乱から地域の秩序を維持するため、国人ら武士と地域住民が組織して () に対抗する (山城・加賀)

農業 … () の開始、() の使用

商工業 … () の増加、() の一般化

貨幣流通 … () の風潮
 ⇒ 幕府や大名による ()

戦国大名の登場

家臣団の支配体制

- ・ ()
家臣に組み込んだ国人・地侍の収入額を銭に換算した () で把握し、収入に見合った軍役を負担させる

分国の統制

- ・ ()
戦国大名が領国統治のために定めた法令
⇒ 幕府法・守護法を継承したもの、国人一揆の規約を吸収したもの、家訓・家法など

都市の発達

- ・ ()
主に () (一向宗) の寺院や道場を中心に門徒が建設
- ・ ()
市場で販売座席 (市座) や市場税を設けず自由な取引をみとめること

都市の自治

- ・ ()
日明貿易の拠点で繁栄 (細川)
⇒ 36人の () による自治
- ・ ()
日明貿易の拠点で繁栄 (大内)
⇒ 12人の () による自治

近世（江戸時代）の原理

織豊政権（1573～1603）

大航海時代

- ① () … () (フィリピン) を拠点にアジア進出
- ② () … () (インド)、() (中国) を拠点にアジア進出
⇒ 明が () をとっていたため、() に参入

1. 南蛮貿易

- ・ 輸入品 … 中国産 ()、()、()
- ・ 輸出品 … ()

※ 1543年ポルトガル人を乗せた中国船が種子島に漂着し、鉄砲伝来

2. キリスト教

- ・ () の来日 … 1549年、() 会の宣教師として () に上陸
- ・ 1582年、キリシタン大名たちによる () の派遣

豊臣政権の土地・身分政策

1. 太閤検地 … 1582年以降、征服地に検地奉行を派遣して測量を実施

- ・ () … 一段あたりの収穫量の基準 → 土地の生産力を米の量で計測

石盛 × 面積（段数）＝ 石高

- ・ () とは、
 - ① 田畑・屋敷地の生産高や年貢高を米の収穫高で表す制度
 - ② 戦国時代の銭に換算する貫高制から転換

2. 刀狩り令

- ・ 目的 … 農民から武器を没収して武士と農民の身分を確定 → ()
- ・ 名目 … 京都方広寺の大仏建立のため

対外政策と侵略戦争

- ・ () (1587年＝九州平定)

- ・ 理由 … () が長崎の地をイエズス会に寄進した事実が発覚
- ・ 結果 … 貿易そのものを禁じなかったため、不徹底に終わる

- ・ 侵略戦争 … 朝鮮の入貢と明への出兵の先導を要求 → 朝鮮は拒否

- ① () (1592年)

肥前の () (漢字注意) を拠点に15万の軍勢が出兵 → 李舜臣の水軍、朝鮮義兵、明の援軍により撤退

- ② () (1597年)

14万の軍勢が出兵 → 秀吉の死によって撤退

↑ 前記期末範囲ここまで
